

| | | | | | |
|------------------|--|-------------------------------|-----|--------|--------------------|
| 科目名 Subject | 着装技術Ⅱ Techniques of Kimono DressingⅡ | | 教員名 | 着装チーム | |
| 開講年次 | 1 | 開講時期 | 後期 | 単位 | 2単位 |
| 必修／選択 | 選択 | 授業形態 | 実習 | 時間 | 60時間 |
| 実践的教育 | ○ | | | | |
| 主な学習効果 | 知識・技能 | 思考力・判断力 | 表現力 | 主体的行動力 | ホスピタリティ・コミュニケーション力 |
| | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ◎ |
| 科目の概要 | <p>着装技術Ⅰで学んだ技術と知識をベースに、プロの技術者＝「山野流着装奥伝講師・美容着付師」の資格取得を目的とし、老若男女、健常者、障害者を問わない多様性のある技術・技能を修得します。実習では七五三、成人式振袖、婚礼列席者の装い等、美容サロンで需要の大きい実践技術を徹底して学ぶ他、ヘアメイクを含むトータルビューティの表現力を磨くことで、“人に着付ける”というプロの立場と“教えさせていただく”という指導者の立場を深く理解していきます。この職業実践専門課程の実施を通じ、美齡学を踏まえ社会に役立つ技術者として就職1年目から現場で貢献できる総合力が確実に習得できます。</p> | | | | |
| 授業の目標 | <p>本科目の履修を通して、 ①サロンワークをイメージした実践学習を重ね技術者とお客様の双方の立場を理解し、技術知識共に美容着付けのプロを意識したトータルビューティを表現できるようになる。 ②公共の技術コンテストに参加する技術が身につく、社会評価を得ることができる。 ③学内外の国際的なイベントやボランティアに積極的に参加し、日本文化を学ぶ学生として日本の文化や着物の知識の伝達と実践を通じ社会貢献ができる。また社会人としての視野を広げ活躍できる。</p> | | | | |
| 時間外学習 (予習・復習) | <p>プロの着付師をイメージし技術のスキルアップと経験を積むための予習、復習を個人の学習課題とする。 ●技術者として社会の情報収集を欠かさず行い、自分の技術をリンクさせ見る目を養いながら、伝統文化の基本と時代に即した表現力を研究する。さらにSNSを常識的な範囲内で有効に使用し個人のアピールをする ●美容着付師技能審査合格のために課題の練習を随時欠かさず行う。(30 - 40時間以上を要する)</p> | | | | |
| 教科書・教材 | 教科書 | 山野流着装教伝 | | | |
| | 教材 | 着装技術Ⅰの教材を使用。新たに必要教材を課題ごとに配布。 | | | |
| | 使用設備・備品 | 授業に必要な教材は国際美容協会からレンタル(保管は短大内) | | | |
| | 参考文献 | (一財)国際美容協会貯蔵 | | | |
| 評価方法 | 平常点30%、実技試験55%、筆記試験10%、評価シート5% | | | | |
| | なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。 | | | | |
| 学生へのフィードバックの方法 | 定期試験後に、口頭にて技術試験の相対評価を行い次の学習目標を实践させる。 | | | | |
| 履修上の注意 | ①資格申請者の履修を原則とする。美容着付師申請は別途手続き有り。 ②社会的資格に通ずる授業の為、接客マナー、出欠等社会人としての要素を重視。 | | | | |
| 本科目履修と関連する資格 | 資格名 | 美容着付師 | | | |

| 授業計画 | | | |
|------|--|--------------------------------------|------------------------------|
| | 授業内容 | 到達目標 | 予習・復習・備考 |
| 第1回 | オリエンテーション サロン技術の実践① 振袖の着つけ | 振袖の着つけを理解し実践できる。 | 社会情報の収集を事前に行う |
| 第2回 | 帯のバリエーション 振袖帯結び：二枚扇 | アイコー枕を使用し、振袖の着つけの自装を実践できる。 | 情報に応じた自分らしいスタイルを考えてくる |
| 第3回 | サロン技術の実践② 振袖のきつけ① (帯結び 花の舞) | サロン営業の主流となる振袖の着つけを通し着付師の心得を理解し実践できる。 | 帯型のプロセスを理解するため、配布したプリントを復習する |
| 第4回 | 振袖帯結び：花の舞 | 振袖に着つけと帯結びのプロセスを理解し実践できる。 | 帯型のプロセスを理解するため、配布したプリントを復習する |
| 第5回 | サロン技術の実践③ 振袖の着つけ② (帯結び ファンタジー) | 着付師の心を知り 適切な体型補正を行い着つけを実践できる。 | 帯型のプロセスを理解するため、配布したプリントを復習する |
| 第6回 | 振袖帯結び：ファンタジー | 振袖にふさわしい帯結びのバランスを理解し実践することができる。 | 帯型のプロセスを理解するため、配布したプリントを復習する |
| 第7回 | サロン技術の実践④ 振袖の着つけ③ (お客様の体形に合わせた着つけを学ぶ) | お客様の体型に合わせた着つけを行い、帯型を選択し技術を実践できる。 | 復習として帯型の模範と自分の作品との違いを確認する |
| 第8回 | 振袖帯結び：花の舞・ファンタジー 評価シート | 仕上がりを評価シートにより自分の技術を確認し実践できる。 | 評価シート判定に向けて技術予習が必要 |
| 第9回 | サロン技術の実践⑤ 振袖の着つけ④ (スムーズな着つけを学ぶ) | 着付師を意識し、スムーズな動きで着つけを実践できる。 | |
| 第10回 | 振袖帯結び：花の舞・ファンタジー (着つけのトータルバランスを学ぶ) | 着つけのトータルバランスを意識し技術を実践できる。 | 技術自主学习 (所要時間は90分程度) |
| 第11回 | サロン技術の実践⑥ 振袖の着つけ⑤ (着付師を意識して学ぶ) | 着付師を意識し、着つけと帯結びを理解し実践できる。 | |
| 第12回 | 振袖帯結び：花の舞・ファンタジー (トータルバランスを意識し時間内に仕上げることを学ぶ) | 着つけのトータルバランスを意識し技術を実践できる。 | 技術自主学习 (所要時間は90分程度) |
| 第13回 | サロン技術の実践⑦ 振袖の着つけ⑥ (時間内に仕上げることを学ぶ) | 着付師を意識し、決められた時間での着つけと帯結びを実践できる。 | |
| 第14回 | 振袖帯結び：花の舞・ファンタジー (時間内に美しく仕上げることを学ぶ) | 着つけのトータルバランスを意識し技術を実践できる。 | 技術自主学习 (所要時間は90分程度) |
| 第15回 | サロン技術の実践⑧ 振袖の着つけ⑦ (時間内に美しく仕上げることを学ぶ) | 決められた時間に着つけと帯結びを実践できる。 | |

| 授業計画 | | | |
|------|---------------------------------------|--|-----------------------------------|
| | 授業内容 | 到達目標 | 予習・復習・備考 |
| 第16回 | 振袖帯結び：花の舞・ファンタジー 評価シート | 評価を通し、振袖と帯結びの技術が着付師のレベルに達した事を確認し実践できる。 | 技術自主学习（所要時間は90分程度） |
| 第17回 | 振袖帯結び：花の舞・ファンタジー（プロのレベルの着つけ技術を学ぶ） | 技能審査に向けて、プロのレベルを習得し実践できる。 | 技術自主学习（所要時間は90分程度） |
| 第18回 | 技術の確認 | 決められた時間内に着つけと帯結びを実践できる。 | 自身の技術課題を確認して復習をする |
| 第19回 | 海外研修 | 海外研修旅行で短時間での着つけ技術を実践できる。 | 海外で着用する着物と帯の事前準備のため、着物が入るバックを持参する |
| 第20回 | サロン技術の実践⑨ 男子の袴 | 成人式、婚礼の男子の袴の着つけを実践できる。 袴のたたみ方を理解し実践できる。 | 袴のたたみ方を復習する |
| 第21回 | サロン技術の実践⑩ 七五三の女兒・男児 | 七五三の意味を理解し、子供の着つけの特徴を学び実践ができるようになる | テキストを事前に一読してくる |
| 第22回 | 七五三帯結び：小菊結び | 子供用アイコー枕を使用し、小菊結びを実践できる。 | |
| 第23回 | サロン技術の実践⑪ 卒業式の装い | 卒業式で装う女子の袴の着つけを理解し実践できる。 | 社会情報の収集を事前に行う |
| 第24回 | 女子の袴 | 袴のための着つけの特徴を理解し、袴の扱い方とたたみ方を実践できる。 | 袴のたたみ方を復習する |
| 第25回 | サロン技術の実践⑫ 訪問着・喪服 | 様々なシーンでの着物の常識を理解し実践できる。 | テキストを事前に一読してくる |
| 第26回 | 七五三の付き添いの装い 色無地・訪問着 | 付き添いの母や祖母の装いとしての着つけと帯結びを理解し実践できる。 | テキストを事前に一読してくる |
| 第27回 | サロン技術の実践⑬ 振袖の着つけ （帯のバリエーションを学ぶ） | 振袖の着つけと帯のバリエーションを実践できる。 | 社会情報の収集を事前に行う |
| 第28回 | 式典での装い 礼装 振袖・男袴 | 資格取得の認定証授与式にむけて着つけの技術を理解し実践できる。 | 自分の装いのコーディネイトを事前に準備し、場合によっては持参する |
| 第29回 | 知識の確認 | 着物に関する知識を総合的かつ理論的に理解し的確に解答できる。 | テキストを熟読し前後期の学びに関する知識を覚えてくる |
| 第30回 | 知識の確認 （美しい着つけと着物の知識を学ぶ） | 日本人として老若男女を問わず美しい着つけと着物の知識を理解し的確に解答できる。 | 自身の知識課題を確認して復習をする |